

第4章

基本目標の達成状況

■第4章 基本目標の達成状況

健康づくり推進計画では「健康寿命の延伸！健康格差の縮小！」を基本目標とし、主観的健康感と健康寿命を目標値として設定しました。

健康だと感じる人の割合は前計画策定時の値より低下し、目標を達成できませんでした。一方、女性の平均寿命は減少したものの、不健康な期間の平均も0.35ポイント短くなりました。

[基本目標達成状況①]

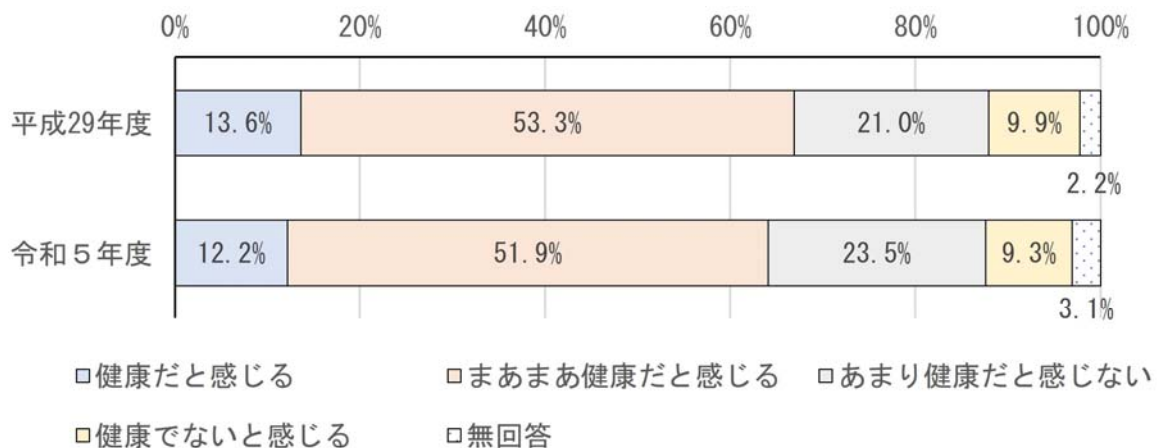
指標	前計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	現状 (令和5年度)	達成状況	
				増減	評価
健康だと感じる人の割合 (健康に関するアンケート調査)	66.9%	80.0%	64.1%	-2.8ポイント	C

※健康だと感じる人の割合は、健康に関するアンケート調査において「1.健康と感じる」と「2.まあまあ健康だと感じる」と回答した人の合計

[基本目標達成状況②]

指標 (広島県「市町の健康寿命」)		前計画策定時 (平成25年度)	目標 (令和5年度)	現状 (令和元年度)	達成状況	
					増減	評価
平均寿命	男	79.34年	平均寿命の 増加分を上 回る健康寿 命の増加	81.33年	+1.99ポイント	-
	女	87.57年		86.83年	-0.74ポイント	-
健康寿命	男	77.91年		79.77年	+1.86ポイント	B
	女	84.17年		83.78年	-0.39ポイント	D
不健康な期間の平均	男	1.43年		1.56年	+0.13ポイント	D
	女	3.40年		3.05年	-0.35ポイント	A

[図4-1 健康状態(主観的健康観)]



資料：令和5年度 健康に関するアンケート調査

評価方法

評価の基準は厚生労働省が策定している”健康増進計画等の数値目標の評価に役立つツール集”にある数値目標の評価用計算シートを使用し、健康日本21と同様に優位差を考慮して実施している。

前計画策定時の値と最終評価時の値を比較し、A～Eに分類している。

A:目標を達成した（目標を達成したように見える、かつ片側P値<0.05）

B:目標を達成していないが改善傾向ある（改善したように見える、かつ片側P値<0.05）

C:変わらない（A, B, D以外）

D:改善がみられない（悪化したように見える、かつ片側P値<0.05）

E:前計画で指標として設定し、現計画で調査せず評価不可（対象指標なし）